

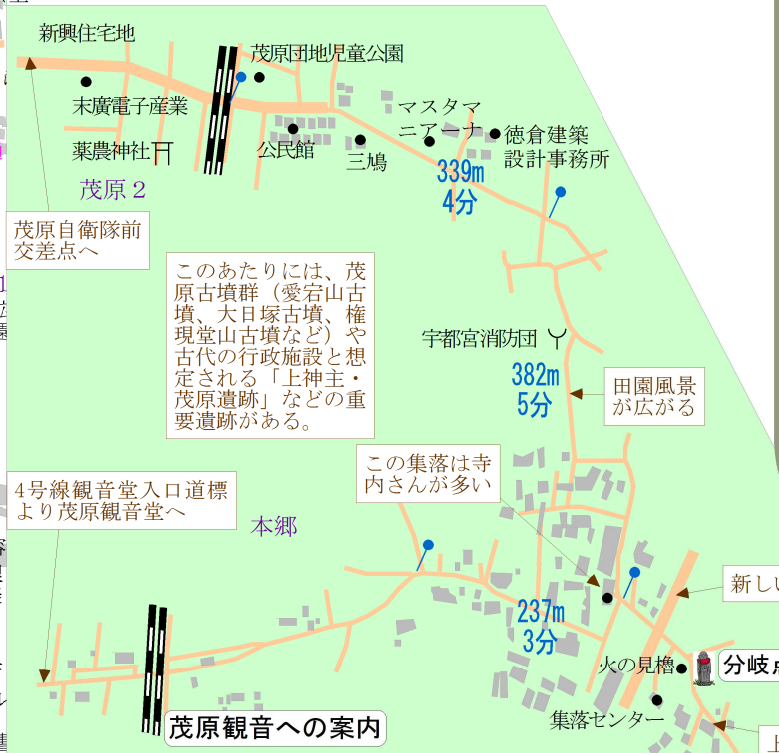


25 雀宮一里塚
江戸から25番目の一里塚。かつて、東側の塚が雀宮5丁目地内にあった。今は住宅敷地の一部が弧状になっていて、一里塚の痕跡を残している。



立場と馬車屋の屋号をもつ民家

③立場と馬車屋の屋号をもつ民家
「カンセキ」の先、右側に立場と馬車屋の屋号をもつ民家が木立に囲まれ並んでいる。このあたりは、道を挟んで「立場」と「馬車屋」という店が並んでいて、腰を掛け休みを取っている人や多くの馬が行きかう姿が、茂原観音堂の絵馬に描かれている。



このあたりには、茂原古墳群(愛宕山古墳、大日塚古墳、権現堂山古墳など)や古代の行政施設と想定される「上神主・茂原遺跡」などの重要遺跡がある。

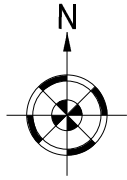
この集落は寺内さんが多い
田園風景が広がる
新しい道
分岐点の石仏
上り坂
高台の畑の中の道
茂原町
819m 10分
茂原観音堂

53 石橋宿～雀宮宿

栃木県宇都宮市
茂原～雀宮

(歩行距離 1561m 21分)

歩く地図でたどる日光街道
<http://nikko-kaido.jp/>
JZE00512@nifty.ne.jp



16 雀宮宿

雀宮宿は、江戸から16番目の宿場で、街道の東西に江戸時代の短冊形の地割りがほぼ当時のまま残っています。幕末期の日光・奥州・甲州道中宿村大概帳では、町並みの長さが5町20間(約580m)、宿内惣家数72軒(旅籠38軒、本陣・脇本陣各1軒、問屋場2軒)、宿内人別268人(男138人、女130人)、駄賃・賃銭 荷物一駄・乗掛荷人共92文、軽尻馬1疋61文、人足1人47文でした。
「雀宮駅に入れば、芝居興行ありとて所々に番附け振出し故、立止りて見れば、名の知らざる俳優なり。安泊りの二階に役者7、8人居ると見るに、奥山に出たる豆蔵(まめぞう)滑稽な身振りや物まねをして門付して歩いた大道芸人のこと)の類(たぐい)なり」(上野下野道の記)円朝が旅した明治中期は、芝居小屋などがあって、賑やかな街だった。
この雀の宮発祥について「当宿は下横田村よりの分村にて、本郷より土地高きを以て台横田村と号し、東のかた奥州古道の辺より人民住せしが、元和年中(1615～24)日光街道ひらけしより往還の左右に移り、鎮守雀宮神社の社に近きを以て雀宮村と改ため、宿駅となりてより雀宮宿と唱ふ」さらに「当宿も日光のかたを上として、上中下3町にわかれてり」(日光道中略記)下町に当たる雀宮5、6丁目、中町が3、4丁目、上町が1、2、丁目当たる。



分岐点の石仏



JRの線路をくぐる

①茂原観音堂の入口
観音堂道は「茂原正観音道」と書かれた道標からはじまり、多くの参詣者が通った道だった。日光街道から茂原観音堂までの観音道を行くと、分岐点におかれた石仏がある。

②茂原観音
伝承によると、室町時代中期、この近くに住んでいた宇都宮氏の家居・裳原遠江が仏師に観音像を刻ませ、安置したのが始まりという。
お堂には、間引き図絵馬や、雀宮宿の繁栄の様子などを描いた絵馬が数多く奉納されている。お堂の観音さまは秘仏で不定期に公開されている。江戸時代から現在に至る多くの参詣者の信仰が厚かったことをうかがわせる。
観音堂の絵馬の中に道をはさんで「立場」と「馬車屋」という家が2軒並んでいて、馬車で休んでいたり、多くの人が行き交っている絵馬が残っている。



観音堂入口道標



茂原観音

立場と馬車屋の屋号をもつ民家

観音堂入口道標